名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY
配布先：文部科学記者会、科学記者会、名古屋教育記者会

報道機関 各位

2025 年 7 月 1 日

自身の認知症発症に強い不安を感じる 中高年者の 4 つの特徴を解明

～認知症を知れば知るほど自分の発症が気に掛かる～

【本研究のポイント】

・自分が認知症[注 1)]を発症することを想像して強い不安を感じる中高年者が存在。
・認知症に関わる知識がある、最近 1 年間に悩んだ症状が多い、など 4 つの特徴を持つ中高年者は、そうでない者よりも、自分が認知症を発症することへの強い不安を感じている。
・自分の認知症発症に強い不安を感じている人を特定することで、効果的かつ効率的な支援や認知症との共生社会の実現に貢献できると考えられる。

【研究概要】

名古屋大学大学院医学系研究科の星野 純子 准教授、中山 綾子 博士後期課程学生らの研究グループは、認知症を発症していないにもかかわらず、自分が認知症を発症することを想像して強い不安を感じている中高年者には、①認知症に関わる知識が多い ②最近 1 年間に悩まされた症状が多い ③中等症以上の抑うつである ④父母のいずれかもしくは両親が認知症の診断を受けている という 4 つの特徴があることを新たに発見しました。

本研究は、40 歳以上の約1，000人を対象に調査し、自分が認知症を発症することに強い不安を感じている中高年者の特徴を解析したものです。

日本では、誰もが認知症になりうることを前提に、認知症への正しい知識や理解を広く浸透させるための施策が進められています。一方、本研究によって、中高年者は、認知症に関わる知識を持つ者ほど、自分の認知症発症に強い不安を感じているということが明らかになりました。これは、認知症に関する知識や理解をどのように社会に普及させていくのか、現行の施策に追加する教育の検討が必要であることを示します。

併せて、頭痛や倦怠感など、最近悩まされた身体的症状が多い中高年者も、自分の認知症発症に強い不安を感じていることが明らかになりました。さまざまな身体的不調が、自分が認知症を発症することへの強い不安に関わっている可能性があります。

次段階として、地域の人々への認知症教育に追加が必要な内容を提案したり、身体的な不調を緩和したりするなど、自分の認知症発症への強い不安を適切に管理できるようにするための研究を計画しています。

本研究成果は、2025 年 6 月 9 日（日本時間）付の国際学術誌『*International Journal of Mental Health Nursing*』に掲載されました。

【研究背景と内容】

厚生労働省の 2022 年度の推計によると、65 歳以上の高齢者のうち認知症の人の割合は約 12%に上り、認知症の前段階と考えられている軽度認知障害の人の割合（約 16%）を合わせると、3、4人に 1 人は認知機能にかかわる症状があります。そのため、誰もが認知症になりうることを前提とした、認知症があってもなくても共に生きることのできる共生社会の実現が急務です。

一方、自分が認知症を発症することを想像して、「自分を始末したい」「絶対になってはいけない」というように、否定的な気持ちを持つ人々の存在が、本研究グループの先行研究や海外の研究により明らかになっています。また、このような強い不安は、国際的には“Dementia Worry（認知症恐怖）”と呼ばれ、死にたいという気持ちの強さや人生の幸福感の低下などとも関連して生活の質を低下させる場合があることから、認知症との共生社会の実現を妨げていると指摘されています。

そこで本研究グループは、自分が認知症を発症することを想像して強い不安を感じる人たちの特徴を明らかにすることを目指し、愛知県、岐阜県に住む 40 歳以上の中高年者、1,045 人を対象に調査を行いました。その結果、①認知症に関わる知識が多い ②最近１年間に悩まされた症状が多い ③中等症以上の抑うつである ④父母のいずれかもしくは両親が認知症の診断を受けている という 4 つの特徴を持つ中高年者は、そうでない者と比べて、自分が認知症を発症することを想像して強い不安を感じていることが明らかになりました。

自分が認知症を発症することに
強い不安を感じる中高年者の4つの特徴

【成果の意義】

自分が認知症を発症することへの適度な不安は、予防行動や受診行動を促しますが、強すぎる不安は、適切な支援を受けることを妨げます。また、自分の認知症発症を想像して強い不安を感じることにより、生活の質が低下している人もいます。そこで、自分の認知症発症に強い不安を感じている人たちを特定し、その不安を適切に管理するための看護を提供できれば、その人たちの生活のつらさを和らげることができます。本研究成果は、自分の認知症発症に強い不安を感じている人たちを効率的に発見し、効果的に支援することに役立つ可能性があります。

例えば、本研究を通して、認知症の知識を持つ人ほど、自分の認知症発症に強い不安を感じていることが明らかになりました。これにより、すでに認知症に関わる一定程度の知識を持っている人たちを対象に、自分の認知症発症に強い不安を感じていないかどうか確認し、強い不安を感じている場合には、その不安を和らげるために必要な知識や情報を追加的に提供するという看護が可能になります。

また、本研究では、最近 1 年間に悩まされた身体的な症状が多い人も、自分の認知症発症に強い不安を感じていることが分かりました。これは、頭痛や倦怠感、腹痛など、さまざまな身体的な不調の管理も、自分の認知症発症への強い不安の管理に役立つ可能性を示しています。

自分が認知症を発症することに強い不安を感じている人たちへのこのような看護により、認知症との共生社会の実現に貢献できると考えられます。

本研究は、JSPS 科研費 JP19K11275（研究課題名：認知症発症に対する懸念や恐怖をもつ中高年者を支援するシステムの構築）および政策医療振興財団令和6年度研究助成（研究課題名：地域に在住する中高年者が自己の認知症発症に抱く感情に関連する特性：関係探索研究）の支援のもとで行われたものです。

【用語説明】

注 1)認知症:

さまざまな病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に変化し、認知機能(記憶、判断力など)が低下して、社会生活に支障を来した状態。我が国では高齢化の進展とともに、認知症と診断される人も増加している(厚生労働省)。

【論文情報】

雑誌名: *International Journal of Mental Health Nursing*
論文タイトル: Factors Associated With Dementia Worry Among Middle-Aged or Older Adults Living in a Japanese Community: A Cross-Sectional Study
著者: Ayako Nakayama[1], Junko Hoshino[2], Rika Usami[3], Kaori Saeki[2], Mika Sakurai[1], Marina Takikawa[4], Naomi Furukawa[3]
[1] Nagoya University Graduate School of Medicine, Department of Integrated Health Sciences, Course in Nursing, Doctoral Programme
[2] Nagoya University Graduate School of Medicine, Department of Integrated Health Sciences
[3] Gifu College of Nursing
[4] Nagoya University Graduate School of Medicine, Department of Integrated Health Sciences, Course in Nursing, Master's Programme
DOI: 10.1111/inm.70077
URL: https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/inm.70077

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構

東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人です。
国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指します。
東海国立大学機構 HP https://www.thers.ac.jp/